

## 検証報告～都議選期間中の安倍自民党総裁の応援演説に関する報道について

東京都議会選挙の最終日の7月1日に秋葉原で行われた安倍総理の応援演説に対し「安倍やめろ」コール等を行う一団（以下「反対派グループ」）が出現した件については、投票が締め切られた7月2日の午後8時以降と翌日以降に各局が大きく扱いましたが、一部に投票締め切りよりも前に本件を報道した番組もありました。

TBSが7月1日の「報道特集」（17:30～18:50）、同日の「新・情報7DAYS ニュースキャスター」（22:00～23:24）、及び翌2日の「サンデーモーニング」の3本、フジテレビが7月1日の「FNN みんなのニュース」（17:30～18:00）の中で本件を扱っていました。投票締め切り前に本件を取り上げた番組は在京キー局の放送の中にはこの4番組以外にありませんでした。

以下にこれら4番組での本件の取り上げ方の概略と検証者所感を記します。

### 7月1日 TBS「報道特集」

「各党党首、最後の訴え」とのタイトルで、都議会選挙の最終日である当日に各党の党首が演説を行ったことを伝えるニュースを約3分30秒伝えた中で、安倍自民党総裁の演説の場面では、「不祥事が相次ぎ逆風が強まる中、聴衆の中にはこの人の姿も」とのナレーションで、取材陣らに囲まれた森友学園前理事長の籠池泰典氏を映し出しました。続いて「激しいヤジが飛ぶ中」というナレーションと共に「国民をなめるな」とのプラカードを大写しにして「安倍辞めろ」を連呼する人々の様子を約2秒間伝え、直後に「相次ぐ不祥事について改めて謝罪しました」とのナレーションを安倍総裁の演説の様子に被せました。

### <検証者所感>

短い時間とはいえ、選挙期間中の選挙報道で一つの政党党首に対する不支持の意見だけを伝えたことになり、「政治的公平性」が確保されていると言えるかどうか疑問の余地がある報道と考えます。

### 7月1日 TBS「新・情報7Days ニュースキャスター」

「安倍首相 街頭演説で“辞めろ”コール 籠池氏出現で警察も…」とのタイトルで、本件に関

する報道がありました。

冒頭に安住紳一郎キャスターが「今日午後4時50分ごろ、東京・秋葉原で安倍首相が街頭演説を行いました。聴衆からは、拍手、声援、辞めろコール、さらには籠池さんまで登場、ついには警察が来る騒ぎになりました。」と、一応は支持者の存在も示唆する言葉を述べましたが、VTRでは「演説があることを聞きつけた安倍政権に反発する人たちが100人以上集まったのだ」として反対派グループをクローズアップして伝えました。

「安倍やめろ」の声に合わせ「安倍やめろ」とのテロップを画面中に3つ表示し、次に「国民を舐めるな」とのプラカードを大写しにしました。そこに籠池氏が現れたことを伝えた後、安倍総裁が到着した際に「帰れ」の声が起り、さらに演説が始まってから「安倍辞めろ」のコールが浴びせられたことを伝えました。ナレーションは「時の総理にこうした声が浴びせられるのは異例」「現場にいた記者によると、ヤジの音量にかき消されてはならないと、スピーカーの音量が次第に大きくなったという。およそ15分の演説中、この声が止むことはなかった」と語りました。この報道中、反対派グループの様子を伝えた場面は約44秒あった一方、支持者については冒頭にキャスターが「拍手、声援」と話した約2秒のみでした。

### <検証者所感>

この報道では、候補者が写り込んでいる場面では候補者の姿と、名前が書かれた垂れ幕をぼかしていました。特定の候補者を映して、他の候補を映さなければ選挙報道の公平性を損なう恐れがあるからでしょう。しかし、そんな気の使い方をしたところで、この報道が選挙の公平性を害していないことになるかという点、それは別問題でしょう。

現場には数千人という規模の聴衆がいたことが明らかなのに、この番組では「100人以上集まった」反対派グループを圧倒的にクローズアップして伝えており、支持者の声や意見はほとんど伝えていません。

選挙期間中のこのような報道姿勢は、「政治的公平性」が確保されていると言えるかどうか疑問の余地があると考えます。

### 7月2日TBS「サンデーモーニング」

「『自衛隊としてお願い』 稲田防衛相発言の波紋」と題して稲田防衛大臣の失言問題を伝える趣旨の約5分間（CM除く）のVTRの中で、冒頭から約40秒間、本件が紹介されました。その中で、「日の丸を振り、安倍総理を支持する人たち」として、一群の人々が日の丸の小旗を降って声援を送る様子が約6秒伝えられ、続いて「一方、辞任を求める人たちは」として、「安倍辞めろ」を連呼する人々を約7秒映し出しました。その後、安倍総裁の演説から「私たちはしっかりと政策を真面目に訴えていきたいんです。憎悪からは何も生まれな

い」との発言を伝えました。その後7秒間、大きな文字が書かれた横断幕を広げようとする人々や、現場の警備にあたる警官と聴衆がもめているような様子が映し出されました。横断幕は「安倍やめろ」と記されたものと思われませんが、画面中ではよく判読できない状態でした。

その後、稲田大臣の失言に話題が移り、スタジオでもこの失言について議論されました。

### <検証者所感>

この番組では反対派グループの騒ぎを取り上げながらも、支持者の様子も一定程度伝えており、本件に関しては大きくバランスを損なった報道とは言えないものであったと思います。

一方、この報道の本題である稲田大臣の失言に対しては、スタジオで徹底的な批判が繰り返されました。確かに問題の発言については法律違反につながりかねない発言であることは明らかで、意見が分かれる部分はあまりないでしょう。ただ、岸井成格氏が「結論から言うと防衛大臣失格ですよ。これだけの法律違反をはっきり犯しちゃってるわけで(中略)誤解を受けるなんていう余地は全くないですよ。はっきりしている。致命傷だと思うんですよ。即刻やめるべきですよ。」などと発言していたのに対しては、岸井氏自身がかつて安全保障関連法案に対して「メディアとしても廃案に向けて声をずっと上げ続けるべきだ」と述べたことをお忘れなのではないでしょうか、と言いたいと思います。岸井氏も法律違反に繋がりがかねない発言をはっきり行ったことには誤解の余地がないのですが、その責任をとったという話は一向に聞いたことがありません。

### 7月1日フジテレビ「みんなのニュース」

「籠池氏、安倍総理演説に現る」との報道が約1分間行われた中で、「安倍やめろ」と記された横断幕や、プラカードを掲げた人々が「安倍やめろ」コールを繰り返す場面が約10秒間映し出され、ナレーションは「会場には、安倍政権に反対する人たちが大挙して訪れ、シュプレヒコールを繰り返して騒然としましたが、安倍総理の演説は予定通り行われました」と述べて、安倍総理の演説の様子を約8秒映し出しましたが、演説の内容は伝えませんでした。

### <検証者所感>

この報道のメインは籠池氏の動向で、「安倍総理の演説は予定通り行われました」という伝え方は比較的淡々とした印象を残すものでした。しかしながら、短い時間とは言え反対派グ

ループをクローズアップした伝え方であり、選挙中の報道としては「政治的公平性」が確保されていると言えるかどうか疑問の余地があると考えます。

### <追記 放送法に関して>

放送事業者が、安倍総理の応援演説に集まった反対派グループの声を伝えるべきだと考えたならば、反対派グループの様子を伝えるとともに、支持者の声や姿も取り上げなければ、放送法第4条1項2号「政治的に公平であること」及び4号「意見の分かれる問題については、なるべく多くの角度から論点を明らかにすること」の要請を満たしているとは言えないことになります。

投票締め切り前にTBSが行った3つの報道を総合すれば、反対派グループの主張を圧倒的にクローズアップしており、「放送法第4条の要請を満たしているとは言えない状態と言えるでしょう。

また、本件において反対派グループが行ったことは明らかな選挙妨害です。中には拡声器を用いた者がいたこともわかっており、明らかに違法な選挙妨害と言える行為です。反対派グループは報道陣のすぐそばで声を上げていたので、拡声器についても報道陣は認識できたと思われるのですが、この違法行為についての指摘は、選挙後の報道も含めてほとんど見られません。それどころか、安倍総裁が「こんな人たちに負けるわけにはいかない」などと語ったことについて、「妨害行為」に対して言った発言であるという事実を無視して、「国民を敵視している」と決めつける論調で批判するコメントが多く聞かれました。このような報道は、放送法第4条1項3号「報道は事実をまげないですること」を満たしているかどうか議論の余地があり、少なくとも公平な報道姿勢とは言えないと考えます。